

吉田 実際に幼児や小学生、小さい子供たちに接して、やはり教育といふのが大事だといふことは、ますますお感じになっておらっしゃるわけですか。

石井 私は今幼児の方をやって居りますが、やって居りますと、その前の方へ関心が出てくるものです。高校ですとその前の中学、中学ですと小学校、小学校では幼稚園、幼稚園ですと就園前の幼児、さらにはゼロ歳の子に関心が湧いて来ます。昨年幼児開発協会といふものが財団法人として誕生いたしました。今、その方に関係して居りますが、これからはゼロ歳からの教育といふやうなことに、私どもは注意を向けなければいけないと思ひます。あまりこの面の研究がなされて居ませんがね。

吉田 幼児といふのはもっと伸びる力があるし、小学校でもさうなんですけれども、学習と教育といふものが噛み合はないまま、勿論、全然教へないで伸びるはずはないんですけれども、噛み合はないまま進んで居るところに、一番問題があるやうな気がします。

石井 私共がやって居る漢字教育といふものは、従来から見ると随分時期が早まって居ます。ですから、あれは早期教育だとひと口に

いふんですけれども、私どもは早期教育などといふものはあり得ないと思つて居ます。この間、就学前の幼児の読字能力の調査の発表が国立国語研究所でありましたけれども、あれを見ますと、四歳児で昭和26年の調査における小学校一年生と同じ程度ですね。二年ほど早まって居ます。けれども、それは、調査してみると、家庭では文字を積極的に教へて居ません。また、幼稚園でも教へて居ません。

それにもかかはらず、覚えて居るといふ事は、子供たちは明らかにそれを求めて居る。だから、いつとはなしに覚える。全く教育をしないのに、子供たちが字を覚えるのだと思ひます。私どもはそれを、もう適切な時期に入つて居るから、それらの子供に合ったものを与へよう、それが私のいふ三歳からの漢字教育なんですけれども、なかなかさういふ具合に取つていただけないところに、この運動がもうひとつ伸び悩んで居る理由があると思ふんです。

吉田 うまく伸びて行かない理由の一つには、「みんなが同じやうに伸びなければならぬ」といふ風に考へて居るのが一般の通念で、三歳になつても、さういふものを求めて居る程度がずいぶん違ふ

わけですね。さういふ意味で、石井先生はどのくらゐ字を覚えたかといふやうな評価をしないで、「覚えれば覚えるでいい」といふ形でやって行かうとなされてゐるわけで、それは非常にいいと思ふんですけれども、何かあの子はこれだけ字を覚えた、うちの子は覚えなない。

覚えなない理由は、具体的なものと話し言葉、そこが結びついてゐなければ字を覚えるといふところまで行かないわけですね。子供によってずいぶん差があるといふことを考へるんですけれども。

石井 確かに個人差がありますけれども、私どもの実験によりますと、「三歳で覚えられない子供はゐない」といふことなんです。三歳児に対する実験といふのはまだ非常に数が少ないんです。ただ、私どものやって居ります三歳児の実験では、多勢応じてくれてゐます。漢字に対して全然興味を示さないといふ子供は、小学校の一年生で全く文字といふものに関心を示さない。パーセンテージと、ほとんど変はりありません。その意味で、私は三歳児といふのはもう始めなければならぬ時期だといふふう考へてゐるんです。